

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

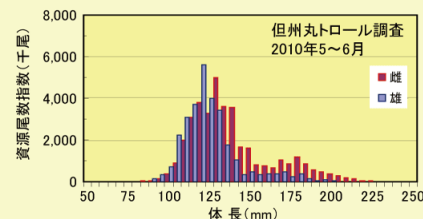
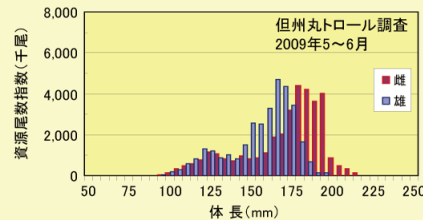
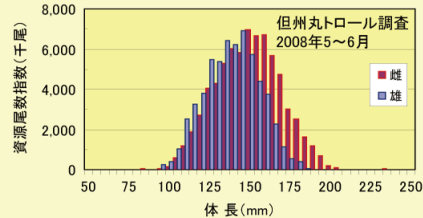
系群名 日本海西部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳(年齢は、ふ化した年を基準に暦年で示す)
成熟開始年齢: 雄:1歳(100%)、雌:2歳(100%)
産卵期・産卵場: 12月の極短い一時期、沿岸の藻場、能登半島以西にはまとまった産卵場がない
索餌期・索餌場: 未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない
食性: 端脚類、橈脚類、オキアミ類、イカ類、魚類
捕食者: 大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明

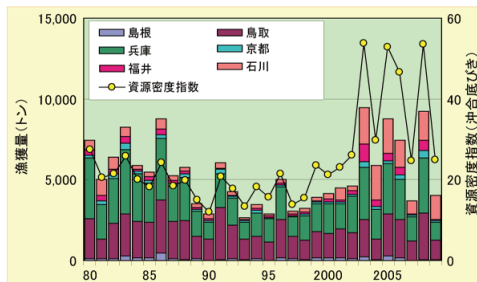
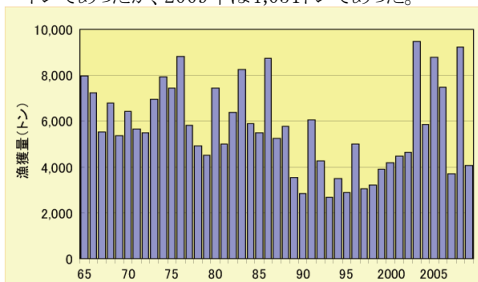


漁業の特徴

兵庫県と鳥取県では沖合底びき網、京都府以北及び島根県では小型底びき網によって主に漁獲され、例年兵庫県と鳥取県の水揚げが多い。漁獲の中心は休漁期前の4～5月、休漁明けの9月である。11～1月の漁獲量は少ない。

漁獲の動向

日本海西部のハタハタの漁獲は、過去50年の間、5,000トン前後の水準を維持してきた。1970年代後半に韓国及び日本海北部の漁獲量は激減したが本海域では減少しなかった。1990年代半ばから漸増傾向である。なお、漁獲主体の年級群の豊度により倍増・半減を繰り返しており、2008年は2歳魚(2006年級)に支えられ前年比250%の9,217トンであったが、2009年は4,051トンであった。



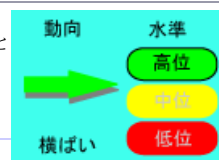
資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づいて1980年以降の資源密度指数*の推移を調べた。加えて、鳥取県における漁獲物の体長組成や毎年5～6月に実施される但州丸トロール調査の結果から、近年の漁獲物の年齢構成、今後の加入状況を考察した。*資源密度指数: 10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)を一定期間(年または月)、ある海域内(中海区または小海区)で集計した値を有漁漁区数で除したものの。

資源状態

本系群は、2003年に過去50年間で最大の漁獲量となったが、これは極めて豊度の高い2001年級によるものと考えられる。豊度の高かった2006年級に支えられた2008年は豊漁となったが、2009年は半減した。2009年の漁獲量と資源密度指数は、過去30年間の最高値を示した2003年以降、最低値となった2007年と同等であるが、2008年は2003年に次ぐ高い値であり、過去4年間の平均値は依然として高く、水準は高位、その動向は横ばいと判断する。

管理方策



2008年の漁獲は豊度の高い2006年級に支えられ好調であったが2009年は半減した。漁獲の主体が1歳もしくは2歳で、年級の入替わりが速く、1、2年内の大きな年変動を伴うものの、2003年以降数年ごとに卓越年級が出現し、高水準を維持している。2011年の主体となる2009年級は比較的豊度が高い。漁獲圧を高めず動向を見守るべきである。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	6,100トン	1.0Cave4-yr	—	—
ABCtarget	4,900トン	0.8・1.0Cave4-yr	—	—

- 100トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 2008年は豊度が高かった2歳魚（2006年級）に支えられ豊漁となったが、2009年の漁獲は半減した
- 西部系群は引き続き高い水準にあり、横ばいと判断される
- 2009年級の豊度は比較的高く、卓越する可能性がある

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲圧を維持しつつ、資源を有効に利用するべきである
- 網目拡大等の自主規制等の措置を呼びかけ、1歳魚の保護に努め、2歳魚主体に利用することが肝要

執筆者：藤原邦浩・上田祐司・廣瀬太郎・木下貴裕

資源評価は毎年更新されます。